

良導絡測定の基本

日本良導絡自律神経学会
第 605 回東日本支部研修会
首都医校 江頭 至光

コロナの影響により約 3 年間学会活動は自粛を余儀なくされてきましたが、本年 11 月に全国大会（名古屋大会）が対面方式で開催される予定です。全国大会では、良導絡測定アドバイザー試験および良導絡認定試験を実施することが決定しました。

そこで、今回と次回の 2 回に亘り、良導絡の基本について講演をさせていただきます。

ぜひ、測定アドバイザー試験および認定試験を受験なさる先生方におかれましては、試験対策として活用していただきたいと思っております。また、すでに良導絡自律神経療法を患者様の治療に用いておられる先生方におかれましては、僭越ながら基礎知識の見直しにご活用ください。

第 1 回目の今回は、良導絡自律神経調整療法で最も重要な要素を占める良導絡測定における代表測定点の取り方、生理的範囲と異常良導絡、平均電流量と患者タイプを中心にお話し致します。

1. 良導絡測定の注意事項
2. 代表測定点のとらえ方
3. 生理的範囲と異常良導絡
4. 平均電流量と患者タイプ
5. 患者タイプと刺激量
6. アドバイザー試験（筆記試験ポイント）
7. アドバイザー試験（実技試験評価用紙）

以上

良導絡測定アドバイザー試験

筆記試験のポイント

*項目に記載の（ページ数）は良導絡自律神経調整法＜基礎編＞のページ番号です。

1. 良導絡、良導点、反応良導点（P22～24）
2. 代表測定点の良導絡記号・番号および相似する経穴名（P25）
例）H₁3（太淵）
3. 良導絡治療の特徴（P37～38）
 - 1) 全良導絡測定の結果からわかるもの
 - 2) 反応良導点からわかるもの
 - 3) 治療の面からわかるもの
4. 生理的範囲（基本的生理的範囲と臨床的生理的範囲）（P48）
5. 異常良導絡の意義とその求め方（P48～51）
6. 平均電流量と患者タイプ（P51～52）
7. 良導絡症候群（P53）

以上に記載しましたのは、良導絡測定を行う上で重要な事柄です。測定アドバイザー試験においても上記内容が問われることが多いので、良導絡自律神経調整法＜基礎編＞をお読みいただき、試験に備えていただけましたら幸いです。

